因伯産物藥効録

三四

特7
52

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52

ガラス使用

特7-52

伊藤博文記

帝國圖書館藏

平田景順編集

因伯産物藥効録

三 四

傳藥九〻堇綬〻節英色あり之一種あわゆきこゝ

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52

ガラス使用

伊藤篤太郎記

因伯産物薬効録巻之三目録

草部四毒草類

大黄　高陸
狼牙　蔺茹
澤漆　甘遂
莨菪　雲實
博落廻　常山
水藜蘆　附子
天南星　蒟蒻
鬼臼　射干
玉簪　鳳仙
防葵　續隨子
大戟　芫花
藜蘆　烏頭
半夏　烏尾
曼陀羅

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

羊躑躅　芫花
莽草　茵芋
毛茛　牛扁
海芋　鉤吻

草部五　蔓草類

菟絲子　五味子
覆盆子　懸鉤子
馬兜鈴　合子草
旋花　紫葳
月季花　括蔞
葛　天門冬

蕺花　蓬藥
石龍芮　蛇苺
莽草　萹牛子
麻　牆蘼
王瓜
石部

何首烏　草薢
土茯苓　白斂
威靈仙　茜草
通草　釣藤
白英　蘿蔔
烏蘞莓　葎草
木蓮　地錦
常春藤　忍冬
葡萄　蔓蓂

草部六　水草類

澤瀉　蘚草

菝葜　女萎
防己　白鬼臼
紫葛　絡石
扶芳藤　紫藤
猕猴桃

羊蹄

龍舌草
茨
酸模
香蒲
苦草
萍蓬草
水藻　聚藻　馬藻
石帆

草部七　石草類　雜草類

石斛
瓦韋

蓮
烏芋
葛蒲
荒
水萍
菪菜
海藴
水松

苔類

海州骨碎補
金星草

芝
慈姑
白菖
菰
蘋
蓴
越王餘筭
經の紐のり

石韋
石長生

通泉草
虎耳草
酢漿草
崖椒
乾苔
石芯
屋遊
百芯采草
石松
馬勃
田麻

雜草

景天
石胡荽
小出児臥單
白鬚髭
井中苔浮藍
地衣草
昨葉何草
土馬駿
柔花
屈伏草
胡荳草

苔類

佛甲草
螺厭甲草
仙人掌草
陟整星
舩底苔
垣衣
烏韭
卷柏
艾納
吉祥草
蛇眼草

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

碎米柴

因伯産物薬効録巻之三

平田景順編集

草之部四　毒草類

大黄　今通名　根　破結熱開痰滯通大便

漢種ありて形くさ似て栽ゆされたるもの効うすし

一種土大黄あり薬漢種に似て落ふかり己中に柿多り

高陸　やまごぼう　根　治水腫通小便生汁を服すれば吐下甚し

人家陰地竹林中に生ず

防葵　ぼうき　根　消痰積痼を鍼灸利水

公園　まつのり　茅石そ又防風とも云茎牡丹の茎に似

狼牙（通名）　根　痔瘡よし

公園にのりいづるくさに栽てもよく繁茂するものなり

蔓茹　根汁瘡痔を愈し一息間を除く

二種あり漆阪蔓茹は上方なす今公園あるこの

大戟　草蔓茹あり　根　通　大小便治腰満急痛

漢種公園にあり

澤漆　葉　茎　脚氣水腫よし用べし

人家園圃の中に生ずる小草なり

甘遂　根　停水と吐下せしむ

洋種のこれ公園にのり是も赤皮甘遂の一種なり又

日地新茂沢村にもこれ生ずるの形なりとれもまた

赤皮甘遂の一種にして本国自生根黒きものとも

又別種のあるなり

續隨子　実　通　大小便葉白汁虫傷よし

人家に一株栽ゆれば多くの日生して殖ぶ此実油多し

萆茘　実　葉　切曼多羅花と相似なり

深山幽谷に生ず私都福地山にあり俗に烟草花

以て萆茘とする大に非なり

雲實　実　沿瘡痢

山野水際に多し

苘麻（ひま） 実 子油治瘡疥癬痔瘡諸痛不逐
人家こうあて能繁茂するものあり
博落廻（はくらくえ） 葉 茎 瘧風息肉よつけてはし
法多歌 石見川ちかきこと多し一名ふの形かぢの葉に似て
色ちらけ茎葉をきれば黄汁出づ一種あるよ似うう
小草ゆり白屈菜といふ和名「ふさのもう」又「たむーぐさ」と
いふ葉形切葉ちよ似て小く茎葉より黄汁出るもの
同じ只花の形色異なりあるまたあーつけてはし
常山（ぢやうざん） 根 截瘧よしー
蜀漆（しよくしつ） 蜀漆の葉 切同じ 山深山に生じ八月頃
須佐村をよりあり又日地歌 石見代村にあり一種海州

常山は「くさぎ」あり近きに沼山あり又土常山は「あま
ちや」あり深山にあり園に作る形あり山一種に「こがくさ」とふ
あり
藜蘆（しやうさう） 根 多田田ねば吐を出づ用ゐば解凝を
近山に多し 他国にも深山にあるものなり 長い葱白
藜蘆あり又蒜藜蘆は「だいけいさう」と云未見 尚古へよ
り藜蘆と「おとよ」別ぶ 非なり「おとよ」は萬年青あり
種類多し 山根労療の出と殺し 制大腸を治ものあり
木藜蘆（えふひりのき） 葉 疥癬殺虫の葉ありと云一り
山中自生あり 公園ゆりあり
附子（ぶしし） 根 切所芙蓉と名似り 女量を用ゐ

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

是ば元氣を敗ぶり過ぎれば殺人
家に栽て花を賞するもわるき根ハうるはしき
ものなり

烏頭 やまとりかぶと 根 治濕痺拘攣痛藥汁
山中自然生の草烏頭あり深山に多し八月頃花開く
日陰頃 左木谷村を是と云多し一種「ゑめうづ」とよびあり
山中に多し白て小草あり

天南星 通名 ぞぞ てんれ 品彙 根 除痰解凝
深山幽谷に多し日陰頃 別して多し一種「むさし
ぶ」とよびあり葉三枚にして天南星のごとき花あり
此花に「雪ごもり」とよびあり花白く雪のごとし

蒟蒻 こんにやくだま 根 腫毒をつよくす
人家樹下に栽て多し解毒を食用となすものを「こん
にやく」とよぶ漢名 褐膚あり

半夏 通名 ちうしやう 根 消痰止吐逐水消腫
園中に多し 青原より西に別して多し一種「なつは
げ」とよびあり 是齊州半夏なり

鬼臼 ひさかた 根 真物自然生あり
一種鬼燈檠とよびあり 和名やぐるまさうとよぶ深山に生
ず公園にあり癬を治す 又一種 舒州鬼臼とよ
その大山野に越しあり葉ひきさけ莖中央より
分て蓮の葉の如し 故に「やまびも比葉」とよぶ 各あり葉の

中央より茎出でて白花咲開く

射干 ひあふぎ 伯州 根 消痰解凝

庭園に栽て花を賞す 深山に自生せり一種花紫

紫縮ありて白花茎を抱へ斜に出でて葉の中に挿枝

ようす 又別に「しやが」とよびて山野に多し漢名蝴

蝶草 葉形花色とも射干と異なり

鳶尾 いちはつ 根 大小便を通ず

人家に栽す葉「しやが」に似て叢生し葉より花茎短く花

茎ごとの花の開きを異にすなり

玉簪 やくらいぎぼうし 葉 消毒腫

瓶花となるあなり 一種山中に自生するあり葉小く

渓流にて「やくらいぎぼうし」の如く白形にして又つ花のぎぼう

しに紫蕚とりふ人家に栽す 深山に多し 又

葉の中央の花茎などあり

鳳仙 ほうせんかは通名 実 軟堅骨硬

人家に栽て花を賞するあり花白紅あり

曼陀羅 いがあさ 花実 麻茎あり故に痼を鎮む

種あり 栽てようでできるものなり

羊躑躅 きつつじ 花 止風湿痛

黄花のもの稀に人家に栽す 公園にあり一種黄赤色

のもの 日野郡にもあり多し 又一種山躑躅はやはり

つつじ 因州山野に多し 伯州に稀なり 花は紅

三十年に示の事あるべし 日野郡に大木のつつじあり 昔芝郎の殿柱とあり 今も法恵郡上地の山にハ柱とあるべき大木のつつじ有りと云り

一種石竹とつどとふなり
芍のつどとう花なりとも
ふるなり

躑躅 ゝて花赤し一種紫躑躅ハうぐつど
花多く白く一種流球つど同州そ「ぐんごつど」とう日州
川筋両岸ゝ多し花の時美観あり又「さつきつど」ハ杜
鵑花なりとも教種ありて假山庭際ゝ多くうゑ
又「ぎうしくま」ハ石蕊とうゑ伯州ハ大木なり
芫花 ちやうじざくら 留侯とかし水腫とうし
公園多り花の形丁子のごとくして葉つるなり
蕘花 きこがんひ 功ゝ用ゐ
山中多り花芫花ゝ似て黄色枝梢ゝ密くつるあり
又一種白花のものあり「ねがびし」又「やまかごとも云
莽草 しきみ ふのき 葉 外用して結核と解治痔牙痛と止む

佞ゝ花の赤とう山中ゝあり
菌芋 ゝやまいもきみ 芋葉 除湿痺止痛
深山ゝあり高サ四五尺山中ゝもあり
石龍芮 たがらし 子 治湿痺毒ゝ傳て腫毒蛇傷ゝ
路傍溝渠中ゝ生ず葉馬陸の葉ゝ似く深緑色なり
毛茛 むまのあしがた 葉 搗爛して發泡とし瘧と截り瘡ゝ塗る
原野山麓ゝ多し石竜芮ゝ似て葉ゝ毛茸あり
上洛生ず又一種ゝ多し根のぶたんとうあり初生ハ水芹
ゝ似ていし葉ゝ多く疎し牡丹葉の形ちとなるあり花ハ
きんかうけとうハ毛茛の一種なり
牛扁 ごいじんさう 山州両州ゝ多し春ゝ出て高ゝ伸ゝ

うとの小ハ牛蒡牛蒡ありて病毒を用ひて打ちまち治をとるこを
又一名たちまちそうと云山野に多し

蕁麻 いらくさ 葉 内服すれハ吐利をもよをして腫傷をつけてはし
山中陰地に多し

海竿 まんしゅう 根 葉 有大毒癩疾を治をとる
蜜柑公園にあり

鉤吻 蔓生の系 つるうこん 葉 根 有大毒 外用にて癰腫を治す
莫積毛ふのもの芥菜のもとハなし一蔓生のものハ沙さう
るし」にて山中本石或ハ田畑の畔みちにてはびこ

草之部五 蔓草類

蒐絲子 ゆすりかづら 子 強筋骨温虚冷
水側樹上に蔓衍を法更新潟山村川筋に別して
多し

五味子 まつかづら 生津止渇咳嗽
韓種公園にあり一種「まつかづら」とよぶもの実色北
五味子にして上品なり深山にすゞ樹をまとふ又南方諸
ハ和名「さねかづら」なりて近年沙山あり此実ハ下
品なりて茎用に佳なれ茎ハ実とこれかゝ髮と搗て用ひ
なり「ゆすらかづら」の名あり

蓬藁（ふさいちこ くんもいちご） 子 食用となすべし

山野路傍に多し一種寒苺ハふめいちごあり又

藤田薦（なかしろいちご） ハ原野に多し 葉三枚ツ付多なり

なかしろいちごに一種葉ひろく尖り深緑色のものあり

覆盆子（くまいちご） 子 補益の効あり

深山にあり其の覆盆子和産なり

懸鉤子（きいちご さがりいちご） 子 食用ニよし 皮 根 止血崩下利 葉 喘ニよし

山中に多し 覆盆子ニ一種「かねがいちご」とふあり

日光辺に多し 此ハ覆盆子の色赤きなり又「とういちご」とふあり

其大小にて草麻黄の如し

蛇苺（くちなわいちご） 汁沿蛇傷湯火傷ニつけてよし

原野に多し

馬兜鈴（むまのすず じゃがうさう） 根 沿積聚愈頭瘡毒腫ニ塗てよし

山林の中に生ず法京歌沢山村の林中ニもあり

葉ハ山茶に似て黒緑色なり伯州にも有り俗名青

本香と号して毒のくすりとふあり

合子草（ふうのごそ） 葉 ちくて蛇傷ニ塗てよし

溝漬の側に多し葉王瓜葉に似て長し山実根ともに

蔓つまび椀の如し

牽牛子（ひるがほ） 子 水飲ニ下す

種類多し 園中に栽て花と実ともに多し一種ハ

王あさがほ」あり漢名丁香茄児と云公園にあり

旋花 ちりめんかづら 根 筋骨を強し精氣を補ふ

原野圃側に多し 又一種「ちりめんかづら」とあり海

濱沙地に多し

紫葳 のうぜんかづら 花 調血解毒花上露は目の毒なりと云

人家に栽す 松樹にまとはること甚しきものあり

牆蘼 のいばら 実 根 営實 瀉大便 根は止痢 軟菜として牙痛

を治す 本草に受実浮下の功を載せ地方にあり

山野にも多し 山牆蘼 ともて地に生ずるは

野牆蘼あり人家に栽て花を賞することあり 黄

薔薇は「きいばら」あり「ばらいばら」は實相花あり「ごきん

いばら」は茶蘼花あり「ばらいばら」は十姉妹あり 同名異実 又さらら

月季花 ちやうせんいばら ちうちんいばら 楊花の如し 消腫毒

人家に栽て花と共に花一月隔て咲くものあり

括蔞 きからすうり かるり 實は痰欬を治す 根は搗て濾し天花粉と

なして用ゐる 燥を除き渇を止む

山中に多し 人家にもあり 実王瓜に似て大きく黄色あり

根を搗碎 天花粉と製するあり

王瓜 からすうり 根 生汁 導大便 乾根通經閉

人家籬辺に多し 接ぎ木にすべし 蔓を切て血を活し焼き用て反胃を治す

葛 くづまいがづら 根 解凝 茂邪 生薑 止血

山野に多し葛粉は食物の上品なり又山民救荒の

寶草とも云べし

天門冬 くさすぎがづら 根 潤燥 煩熱 と云 和胸

蔓生のものは岩井形牧谷 一種草本の葉花戸そ

「ぎてとうらん」とよぶ人家に載て蔓中央に戸とよぶ多あり此根を

採り茅用となすべし 砂糖とまぶ切用べし

石部 根 止嗽 潤肺 殺虫 頭痛 よし

漢種あり 藤本の葉の公園に多し

何首烏 根 強筋骨 解毒

漢種のみ 公園に多し 俗に「かしゆうもとこの」葉部の

土芋 ところのあり

草蘚 ところ 根 去温痺 不遂

山中に多し 味甘きと「ちまごころ」と云 味苦く硬く

ひげ多きと「鬼ごころ」とあり

菝葜 がいらいぐら えきらいぐら 根 諸瘡の毒と解し

俗に語て和の山帰来と云 山野に多し 一種本草のそ

のかり葉に刺あり 漢名山梨児あり

土茯苓 さんきらい 根 諸瘡 梅毒 こよし

漢種 公園 とかり一種山帰来に似て刺多く和名「菝

がらあう」とよぶこのかり漢名粘魚鬚と云 功和似り山中に

生じ菝葜の如く多のみ

白歛　通名　根　外傳して腫物と愈し因後て骨哽とす

漢種公園より有り

女蘞　がんぐら　茎花　治泄利驚癇

山中に多し一種草本の葉の深山より採て「つりがねさうとも」とよぶ

威靈仙　くびさう　根　治風湿疼欬脚気不遂

草本のものいくがいさう」とよぶ公園より蔓生のものを「てつせん」すべて人家に栽て花鉄脚威靈仙とて採らして「てつせん」と異なるものなり

茜草　ねるる　根　止諸失血行血

山野樹法に蔓し多し一種草本の葉の深山より入一種山葉なるものあり「車葉さう」と云

防己　つづらふじ　根　治水腫湿热利小便

山野に蔓し多し葉形いろいろあり一種「かわつらふじ」とよぶ有り山中に有り「つるそばの花に似て白し」根茎中空

通草　ないびかづら　根　通小便解毒止痢

山野とも多し五葉のものの三葉のものの又三葉ものてからき鋸歯あるものあり又一種「ときハあけび」とよぶ有り

漢名野木瓜なり

鈎藤　かぎかづら　鈎　治驚癇眩暈

公園に有り陸奥の産なり

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

白兎蘿 いけま 根 解諸毒止痛

深山中に多し 葉蕺菜の葉に似て莖と截まば

白汁出ることあり 一名牛皮消とも

白英 まるでの ねよごろ ぶどうご 苗根 治煩熱風疹丹毒

深山幽谷のあれども 川辺に多し 葉の形鏡断

の如くして実は ねよごろ ぶどうごのごとし

蘿蔔 がごいも 子葉 補益の菜あり

山野に多し 一種「さきえのがごいも」あり 花白くして さごじよ

らんとも 漢名 牛奶菜あり

紫葛 かなぶ 苗根 治熱毒煩悶

深山林中にまとふ 蒲萄葉に似て紫色あり

烏蘞莓 やぶから 苗根 凉血解毒利小便

竹林中に多し 蘿卜に似て又生ず

葎草 かふむぐら 苗 治五淋疝癪

茎節に刺あり

蔓又は刺なり

絡石 ちいかづら 茎葉 内服して解瘡毒外用して愈瘡蛇傷よし

山野 樹石垣に靡とまとふ 一種小葉のものあり 石血ありて「せきざかづら」とも

みな紅紫色に変ずるものあり

木蓮 ひさかづら 葉 為末或は生汁治背瘡 実 治遺精

山野 樹靡とまとふ 葉絡石の形にて 頗大にして厚し

実「いちじく」の如し

地錦 つた 根 逐瘀血治帯下

古樹破壁などをまとふ秋の紅葉頗あり

外に同名あり園圃の中に生ずる小葉みな地錦あり「ヤ」

きさう」とも又「ひらさねけまん」も地錦といふなり

扶芳藤 まさきのかづら 茎葉 浸酒飲去腰脚疾

山中樹上に蔓延して「まゆみの葉と同じ」

常春藤 きづた 茎葉 癰疽腫毒を治して活血

人家に植て本草の如く斑入の品は庭園に栽て

賞するものなり

忍冬 すいかづら 今通名 茎葉 治諸瘡湿毒癰疽 花 名金銀花と効

同じく茎葉にまちまちあり

已下三種果部ヨリ移シ入

山野に多し 俗民これを採て飲ものなり一種本草の

ものなり「ゆうたんかづら」とも公園にあり

紫藤 ふぢ 功未詳「ふぢこぶ」を和方に藤瘤とも云

山野に多し一種「ぶどうふぢ」といふあり葉に似

して白花なり

葡萄 ぶどう 実 涼熱利小便

人家に栽て実を賞玩し一食するものあり

蘡薁 びくかづら えびづる 藤根 利小便

山野に多し山民は其の新芽を採り糅に入れ食するなり

猕猴桃 あらくちかづら つるもん 実 止渇解熱

深山に多し皮は実に似て長さ一寸許冬に至て

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52

ガラス使用

食毒〜

草之部 六 水草類

澤瀉 さゝおもだか

根 通水道滲濕熱

池沢中ニ生ズ葉形比の形ありてその末尖あり 狹長

そのハ水沢浮みてあるもの

蘚草 なぎいもだ

苗 疫喘を消し腫毒につけてよし

田中溝渠ニ多し 一種大葉のものあり「みぞのかび」

とゝ秋ニ到り深紅色の花を咲くものあり

羊蹄 ちんざい

根 磨碎き醋と和し癬腫毒につけてよし

山野圃側濕地ニ多し 一種山中ニ生ずるもの葉

短く丸し 色土黄ありて羊蹄古名ニト別スシンザイ

已下五種果部ヨリ移シ入

ハ郎ニ菜ノ汁ナルベシ

龍舌草 ぶらすぐこ

葉 搗塗癰疽湯火傷

田中ニ生ズ葉車前葉ニ似て三角の花を咲くものなり

蓮 はす

葉 名荷葉 止吐下血

根 名藕 止痛解毒搗貼打撲

実 名蓮肉 厚腸胃補虚損

池中水面ニ敷て葉を浮ベ花を賞る 土地の風俗

根ハ黄白ニ節ありて結延ものく蔕ニ加ふるのみなり 春の新

葉を「ぜにぐ」と云 花を荷錢と名づくその冷ニ出る花ハ

水面ニ浮ぶ花を藕荷と云 水上ニ出ると芙蓉荷と云

花を「はすの花」と名つく 蓮房より花の莖出るなり 花色ハ紅と

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

白とゆり又別に一種睡蓮とゝゆり是も池中まゝり
葉の形指ゝして一ツの切目ゝり蓮の葉の後ゝり大き一寸除
の小白花ひらゝして重なり日暮て開き夕しぼむあり

芰 玄ー 実 可代穀解毒熱

池澤中に多し実をゆでて食べし

茨 いばら 実 治下虚

池沼中に生じ葉蓮に似て皺あり芒刺多し花の形多の
喙と開くが如し花ありて株大なり三寸ばかりあり

烏芋 くろぐわい 根 厚腸解毒止下血

地生のものと野芋薺とゝ溝漬中に多し茎燈草の如

慈姑 くわい 根 破血下胞衣姙婦不可食

水田に栽る一種野茨菰あり「おもぶくとゝ」は根ハ形長く皮
色淡黄なり作ればくわるとゝ一種細茎のものあり溝漬中に
多し「ヒゞ」とゝあり

酸模 すかんぽ 根 清熱治劑

山蓼 路傍に多し形「ちんぢい」に似て小さく莖赤くして
味酸

菖蒲 せきしやう 根 温中駆風止痛

溪澗水旁或ハ水中に多し数種あり一種小葉のもの
あり「からいせきしやう」と云是錢蒲あり又「ぶろうどせきしや
う」とゝあり是雀舌あり

白菖 あやめ 根 治風湿欬逆積聚 葉 去諸虫

五月菖蒲の句に用ゆるあり古称に「ねめ」と称せしあり
今ふつう「あやめ」「あやめぐさ」かして異してねめといふ漢名
渓蓀とす一種「さきぐさ」といふあり漢名
香蒲 がま 葉 切赤詳 蒲黄 止血活血暈心腹痛
湖辺水沢中に多し蒲黄はがまの花の粉なり
莞 ふとい 水澤中に生じ編て席とす又水辺に生ずる
あり「たまがね」とよびあり毛水葱なり「ぐつぎけ」も水葱と同名なり
又茎三角なるもの溝渠中に生ず「えんかくぐさ」云毛薫草なり
菰 まこも 苗根 清涼解毒のわざありとす
池沢中に多し茅と菰筍とす秋の筍の如きものと生ず菰首と
ふ俗に「ぐんつる」とす中に黑き灰のごとき物と烏蕈とす毛と

備前にて「まこもだけ」とふ婦人髪の光ること比なしよし
一種花後に実を結ぶものあり「ちがやつぐ」とす毛菰茅
あり 出雲郡吉成村にこの丹に多し
苦草 せき ちがうも 葉 活黄胖白帯下
湖中水辺に生ず葉黑三稜の葉に似てうまく稀ず
きて水辺に漂ふ袋川の辺にもあり
水萍 うきくさ 葉 利小便去痒止血
夏月田澤止水中に生ず葉のうら紫色なるものよし
一種「ひろきくさ」あり漢名麻藻と云あり
蘋 ぬんぴ 田字草 たのびも 池澤田中に生ずるものなれども両州まで
まれに又出づ他日疎漏を補ふべし

萍蓬草 ひるわ称 根 血の効あり

池中川原に多し ひるわ称ハ川骨なり 茎 花

そせんそうとも

菪菜 ちさ 葉 去熱利小便又ゆでて腫毒につけてよし

池澤の中に生ず葉水面にうづ葉の周迄に雲母置

ありて一方缺 一稜水盤とも云り 和名「ぢちひみ」と

又沈沢溝渠の中に生ず葉厚く厚く一缺ありて

黄緑にして光り葉の裏に紫色あり

蓴 ぢんさい通名 葉 逐水解毒

池沢中に生ず初生の葉酒菜として食ふべし

水藻 くはも 惣名なり 共に清涼制欲の功あり

再按ずるに「うど」ハ玉川の別流今市村谷本の川

聚藻 きんきよも うど 因州鹿野 流水中に多し冬中食用とす

鹿野玉川のうど名物なり

馬藻 やなぎも 溝渠中に多し葉色黄緑にして

柳葉の如く水に浮ひ廉価なるものなり

海藻 うみのも 惣名なり 共に解凝利小便殺虫の功あり

馬尾藻 ひんぎさら 海中の石に生ず莖細く枝多く

山葉多くして赤きむつくさのごとし 正月の飾り

ものとするものあり一稜莖中空枝葉稀なるものを

「ぢんぐさう」と云

大葉藻 ちげも 海中に生ず泥菖蒲葉に似て薄く

細く長く波に打ちげられて海濱に多し

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52　ガラス使用

海藻　もぞく　功上は同じ

海中石上より生じ枝はかの海帯の一種「おがごんぶ」又「ひらめ」昆布等の赤い両州の海にあり　食物本草の

祖帯菜い「ほうら」なり海浜いづくにも多し　その

中に「あをや青屋つめ」「ちゑ塚つめ」各物あり

越王餘粮　うみやあぎ　解凝利水の功あり

海中より生じ枯柳のごとくにして周匝ありて包み枝

葉ありしも質骨の如し　唐にて筋と云　白珊瑚

と名づけ貴重のものなり

岩井郡　湯山村の沖にて採とる事なり

石帆　うみいで　治石淋月閉

海藻の石上より生じ枝多く綱の如し一種うすき

つゝ黒澤にして甚硬し　漢名鉄樹と云

水松　みるい　治水腫

海中石上より生じ一種俗に海人草と云ふ薩州の

海にありて外に有り　上総の海人草は水松を交ぜ

るものなり又別に一種海索麺と云ふものあり因州の名

産なり是も海中の石上に生じ

紙の紙のり　一名ちりめんのり　祖帯菜の幅狭くして皮面折の如きものの

あるべし　民法記に氣多郡青屋の産物に書入り今も

貴重なる人あり　予未だ

然れども名産なり　紙の紙のり

雑品

青屋の古老の云ふ

[illegible]

今青屋の名産として

[illegible]

元「つめ」の石根とう

もぐきぎさ　砂糖つけ[illegible]

草之部七　石草類　雜草類　苔類

石斛（いはどくさ　今通名）　根　治風痺壯筋骨
山中岩石上ニ生ジ人家ニ栽ルフヽ風蘭ト同ジヤウニ
汚ヲキヨク折ヽ有ヲトケ蔕ヲ食ス

海州骨碎補（ちのぶぐさ）　根　骨痛ヲ治ス
深溪土石上ニ生ジ人家ニ根ヲ植ヘ移リヤキ水ヲトケ
蔕ヲ食ヘバ久聾ヲ治スルコトアリ真骨碎補ハ和産ニ

石韋（ひらぐ）　葉　利小便止崩漏
山陰土石上ニ生ジ一種葉短ク少アルヲ杏葉石韋
ト云和名「きんさゞ」アリ又一種葉「くハヘ」ノ如クナルヲ
「いとおとぶう」トヽフ

瓦韋（のきしのぶ　まつふさらん）　功未詳
舊樹皮ニ生ジテ下垂ス葉ノ裏ニ金星アリ

金星草（うらぶし）　葉　治瘧疾解金石毒　根　浸油塗頭生髮
山陰崖壁ニ生ジテ下垂ス葉ウラ〳〵薑硬クシテ
細ク葉裏ニ金星アリ一種「うらでのうらぶし」アリ葉三ロフ
アル是金鶏脚ナリ

石長生（さらばさう）　幽谷石上ニ生ズルヲノヲ根ヲ両州ニアリ
一種「ぬりだし」或ハ「くさ〳〵」トヽフヲノ深山ニ温ニ多シ
法安邪石州村ニ多シ　功能石長生ト同ジヤウニ
石長生ハ疹ニ効ヨシ

通泉草（さぎさう　さぎごけ）　葉　禿瘡花の谷のれば禿瘡をつけてよるべ
隨地にあり　園中年中絶ず花さく　山家にあり
景天（ごけいさう）　葉　治小児丹毒風疹涼熱
人家に栽ゆるものなり　一種馬歯莧葉景天なり「こも
ぢやと」又たまのとゝふなり
佛甲草（まんねんぐさ　ろくまでぐさ）　葉　研て湯火傷につけてよし
陰處水側或い石上に多し　雌雄なり葉先尖るものを
雄とし　雌なるものい葉鈍おなく先尖らずして厚し　一種赤
葉のもの涼山遠谷にあり
虎耳草（ゆきのした）　葉　止吐下血汁治聤耳入口人と吐利せしむ
人家陰湿石上に栽る一種春ゆきたる「葉紅色なり又「いと
ぶかい」面背ともに紅色にして毛をしみゆきとゝろ」とゝなり
葉紅色にして深波あり又「やつでゆきのした」一名大文字さうとゝ
なり花の形大の字の如し　又赤がゆきのした　葉の形古葉の
おゝし　遠谷に多し　又ほの葉ゆきゝたるゝなり　是ふきふ法灸
形ゆ淡の色にあり
石胡荽（ちりめぐさ）　茎葉　去目翳通鼻塞消腫
人家陰湿の地に多し　山草ゆして葉夏接花ぐさ　花色
氏そ此草を翠雲草と名づけ採て青葉を製を息肉
と落るに効ありあり
螺厤草（まめづた）　葉　腕毒をつけ血をあらはし
山中古木陰湿の石上に生じ緑大豆と称するつるの如し

酢漿草、かたばみ　茎葉　治諸淋帯下又湯火傷ゆるつけてよし

庭前園中に多し一種赤孫菊といふあり小さくして色紅紫

あり「あかのぐさみ」と云又一種白いぐんかたばみ」とゆふあり葉花大

あり深山幽谷に多し

小児臥單　一名地錦　やまきさぎ　茎葉　治癍疹血痢下血

人家園中に生ずる小草なり地に敷て莖葉ともに赤し

の消録に令瘡小草なり茶の裏拓草の葉に似て

仙人掌草　けいそうさう　そのはのくさ　葉　止痔血白禿瘡につけてよし

井の辺陰湿石間に多し葉の形雞の足の形に似たり

崖椒　がけはぜ　根　治婦人血氣労症

山中に多し白及葉に似て短編あり高山に多し

紫菫　ほとのあり一種「ほとをげ」とゆふあり山岸陰湿

に細く叢生するなり

白龍鬚　ちりがごけ　治中風不遂

深山古木枝に生ず松羅に似て柔らかなり一種苔

纏草は「ほとごけ」あり山中樹根或は枝に附て下垂

邪に人に絡り緑色菫に多く細し

苔類

陟釐　くはあとのり　消穀止渇

流水中石上に生ず緑色にして糸のごとし一種止水の

中ニ生ずるものを「ゆみどろ」とも漢名水綿なり

乾苔 あとのり　治瘻瘤結核

海中ニ生ず春早く女人採収して紫菜と乾したる如く製造ス伯州篠津村ニ多くあるものも乾苔の類なり

井中苔及萍蓋 井のなかのこけうきくさなり　漆瘡火傷ニよし

もぐて井の中石ゲの間ニ生ずる草といふなり

舩底苔 ふなごけ　舩の底ニ生ずる青苔なり

石芯 さるごけ　しらごけ　解熱化痰明目

山中土石上ニ生ず高さ二三寸鶏冠の形の如く白毛あり

茅ニかくて飲ずし蘭家ニ用ひる依蘭苔ハ此類なり

味甚だ苦しされども功ハ大抵同じかるべし

地衣草 ぬろうとごけ　眼病中暑ニよし

陰地ニ生ずる緑苔なり鵞毛絨の如し又呉形のものも

ひめとも地上ニ生ずるものハ地衣草といふべし

垣衣 つゐぢのこけ　地衣草の垣墻ニ生ずるものなり

屋遊 やねのこけ　地衣草の古屋板屋屋上ニ生ずるものなり

胙葉何草 つめきんげ　自然生ス人家ニまく多載とあるも

一種「いはきんげ」とふなり是ハまく人家ニ栽ゆ志れども

毛ある葉ハ青しぶくし

烏韭 からしのぶ　石ニ生ずるこけの異名なれども蘓恭の説

「からしのぶ」なり洞窟中石間陰ニ多し能く毒を

百葉草 ゆふぎさう　根出乳汁順血

深山陽地に生じ饒達の如くして葉まばらなり

土馬駿（まぎごけ） 止血通両便

山中陰湿に多く高さ三寸許 板の如く一稜短く

して石上に生ずるを「いしごけ」と云 石馬駿あり

卷柏（いはまつ） 調血の効あり

深山陰處に生ず 一種おなじく品一系のみあるを

「ひめ苔」と云 兒州卷柏あり 一名地柏とも云

石松（きろ苔のたまき） 治脚氣 冷痛

山中陽地に多くして生ず

桑花（くわのこけ） 健胃止利 吐下血

桑樹皮に附して生ずるごけなり

艾納（まつのせみごけ） 松樹皮に生ずる 白緑色の苔あり 香

に合せて燒けば烟りちらぬと云ふものあり

馬勃（やぶたまきろ苔のやぶくろ） 治喉痺咽痛傳染瘡 又止血

五六月に湿地或い林中に忽然として生じ中より粉多く

出るものあり 一種「きろ苔のやぶくろ」一名「つちがき」と云ふ 山中

土上に生ず 初めは軟く硬し 後に開きて中に小系袋あり

皮ともに細粉多し

雜草類

屈伏草（おぢぎさう） 一名含羞草

人家に蛮種を植ゑ栽ゆるものあり 巳羊 山本氏の説

あり

吉祥草 ちんちんさう　路傍陰地に生じ因州にてハいまゝ
花咲こゝのとゝんじ実を結ぶ

田麻 からまのごま　葉　治癤癰腫毒
因州原野に自生す〳〵巨濃形二上ひろい自然生り

胡荳草 ゑいざんまめ　通経止痛打撲ふよし
高山に生じ葉「ひさごぢの葉のごとし」

蛇眼草 くふびきさう　蛇傷につけてよし
深山陽地に生じ葉の形水楊梅の葉のごとくして厚く
硬きふと微の葉の如し

碎朱柴 たがゝ〳〵　利尿清血おこのにつけてよし

因野溝側に多し〳〵芹葉に似て長く山葉多く
花びつけり春山白花を開き山角に佳ぶ一種細葉
の巡谷あり「じやんぢん」とす

因伯産物薬効録巻之四目録

穀部

麻麦稲類　稷粟類　菽豆類

胡麻　大麻　大麻　大麦　小麦　蕎麦　蕎麦　苦蕎麦　稲　稷　粳　粳　粟　稷　黍　玉蜀黍　黍　稗　稗子　荑草　荊草　狼尾草　薏苡　師草　薏苡　罌粟子　阿芙蓉　大豆

菽類

黄大豆
白豆
紅豆
黎豆
赤小豆
豌豆
藕豆（十石まめ　白藕豆　八石まめ　眉児豆）
緑豆
蠶豆
刀豆

菜部

葷菜類

柔滑菜類

韭
薤
五辛菜
芥
生薑
胡蘿蔔

蔬菜類

水菜類

葱
山蒜
蕓薹
蕪菁
茼蒿
水蓚

芝栁類

山慈
葫
菘
萊菔
邪蒿
紫菫

懷香
白花菜
蒸菜
繁縷
莧
蒿苣
黄花菜
蕨
鹿藿
芋
甘藷

蒔蘿
焯菜
東風菜
鶏腸草
馬齒莧
翻白草
落葵
薇
灰藿
土芋
百合

柔滑

羅勒
菠薐
薺
苜蓿
苦菜
蒲公英
蕺菜
翹搖
藜
薯蕷
草石蠶

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

竹筍　冬瓜　南瓜　絲瓜

水菜
紫菜　睡菜　香蕈　土菌　石耳

松蕈　黄蕈　松花蕈　紫蕈　仙人帽　地茸　鬼蓋　黄饅頭　鬼華

蔬菜
茄　甜瓜　越瓜　苦瓜

芝栖
芝　石蓴

壺盧　西瓜　胡瓜　甘蔗　石花菜　木耳　天花蕈　地耳

玉蕈　竹茹蕈　麦蕈　青紫蕈　茅蕈

因伯産物薬効録巻之四

平田景順編集

穀之部

麻麦　稲類　稷粟類

胡麻　通名　子　潤養身體止痛

白黑黄の糸ありされども白黑の砂糖を黑勝子と云白好麻を油を搾ふと麻油も香油とも

いとすり

大麻　あさと　子　潤燥補虚　根　止血

雌雄ありて「めあさ」実をむとぶ「みあさ」とも云

小麥　こむぎ　未　除熱止渇鎮心

穂は四稜六稜芒あるとの芒あきとのあり粉とするを
「うどんのこと」とふ又花白麺とも漢名麦麪なり食用の「う
どん」と漢名温淘と云又食用の麪と麪筋と麪と造る
元の水をもきりて乾すを粉と「麦うふ」と云漢名麦粉あり又
小麦の九こふぐと如麹と云「」とりて麹とふをと黄蒸と
ふ又小麦の粉を蒸して饅とふをと蒸饅とも麦人の食
まるとの饅を「ぞん」と喝るなり

大麦 おおむぎ 米 涼熱止渇寛中見中

小麦と如すぐく四角六角ちげのもと云あり穂の色くあるを「く
ろんぼう」と云漢名麦奴なり又水をもて芽をだしるを麦
芽とやしと云漢名麦蘖子又麦芽とも書をしをやしと稠
蒸して蒸して合せて饅とをるあり又麦を炒粉ふしるを
麦とふ「ちつこいご」「むきこがし」あり又ぐぐの麦を裸麦と
ふなり

雀麥 ちやむぎくさ 可充饑

原野に多し 穂穀ありこふ苞と蕚とあり一稜苞の
ちるこれをして上に向ふものあり是鶯麦用て「からもむぎ」と
ふなり

蕎麦 そば 米 寛腸解毒

山中に多く作るとあり「そば切」と漢名河漏と云「そば
粉」と黍黍と

苦蕎麦 こそばかるぐさ 子 可濟荒

山野、溝傍、溝中ニ多シ　春子生ずるもの、中ニ出
ずるこれなり　苔消ればその跡ニふくれをわりて
生ずるなり　その形牛面の形ニ似たり「ぎうめんさう」とも云なり

稻　ちもごめ　米　温中止利　霍痢

「い孫」ハ物名なり　医書ニ稻とあるハちもごめなり「い孫」ハ物名
稻ひりて粳糯とも　早稻中稻晩稻あり　又稻ニ毛の
ながきあり　ながきあり　ながき名も多く
因伯の米ハ白上ずるり　糯米ハ白上して搗ずるを深
とゝふ又むして乾すを「ほしいい」と云　乾餱糧あり

粳　なごめ　米　和胃止煩　長肉　陳廩米　調胃止洩

粳米を粉ずりてむすあるを餻と云　又むして粉ずりて

花ちゝびを麹と云　酒と造るべく醋とあり
べし　又禾稈灰蠱毒を解す

秕　たいとうごめ　たいけい米　米　病人可食

赤たいとうこめ白たいとうあり　今ハ多く風ニ載るものなり

稷　こきびのうるし米　ひえのもの　ぬかびえ　あぶらびえ

黍　こきびのもち米　いふきび　米　嚼汁　鴆ニ酒ニつけてよし

山中ニて作るもの多くハ黄黍あり

蜀黍　たかきび　米　温中固腸

留の傍ニ粘るものあり一種かぎのあり穂曲り実多あ
り又三人きびとて高き三人丈あり

玉蜀黍　つききび　米　可充食　根葉　治石淋

稉稲の二種あり秋早く熟するものは稉あり晩く熟する稲あり妙きはもゝれて花の如し是を孛婁とゝふ

粱 あわあい はつあい 米 止洩除熱

粟の中まで一種穂方にして長毛ありて稉稲あり

粟 あわあい 米 治反胃利尿解毒

芒 ぼうも 種類のうちなり

秫 もちあい 米 除毒熱瘡疥

ぬるあわ

稌子 かをまくきび 米 可作飯

野鴨の足の形のごとくみのる稗あり

稗 ひえ 米 作飯宜脾

水陸の二種あり「なぎび」は稲の出来ざる所のようなる所の芒ありて稲あり毛の短きあり毛なきもあり烟草を栽てはし

又独生の「ひえ」あり「黒いぬひえ」はむらさきの毛あり芒稗か

り又茎正立せずして穂多く仆て小く緑芝なるものと

毛なきものとあり皆の「ひえ」「いぬひえ」とゝふ又水稗のうちに

「くさひえ」とゝふあり芒茎なりまぐて烟草栽るは早稗

とゝふ所〻にあること列挙るは非なり

狼尾草 ちちとぎ 米 可救荒

路傍に高く多〻生ず穂は長毛ありて紫黒色なりまた

演繁毛のごとく古園にあり二種ともに株立て茎は高なり

又農家風を防ぐ為に知風草とゝふなり知風草

ふも葉は良ありは一種となるべし是は岩根芝

蒯草 ちぶらがや 米 作飯

山中の湿地に生じ「かや」に似て穂は「たかきび」の穂に

似てまばらに実あり黄赤色にして油の臭あり

莢草 みのごめ ちくごめ 米 同上

田師 溝例に多し 穂は細枝ありて高扇形に小あを

多く重なりつくるものあり一種「みのごめ」とよびは是は穂

斜に垂れて麦の如き小苞まばらにつけり

蒔草 ちがやむぎ 子 同上

海邊の砂地に多し 茎蒜の如し 此根香附子に似

て長大黒毛多し 夫茎は似り

薏苡 たまこくむぎ 仁 治肺癌解毒通尿 根 殺虫

唐種 公園にあり一種人家に植て実を小児院

毒とするものと「おくぶま」とよぶ是は川穀なり又一種大丸

て扁く堅くひびいるものあり是は斡珠なり

鼠子粟 けし 米 止瀉利

鼠種あり子を乾し阿仏とする白花草葉のごと

し一種苗茎ともに小りて毛あるものを「むらんさう」

と云 花葉春花なり

阿芙蓉 けしのやに 止痛催眠鎮吐下

白げしの実を刺して其白汁を採りあるなり

菽豆類

大豆 くろまめ 豆 解毒止痛利水

俗ニいふ大豆ハ「こてまめ」ありまた一種わるものあり 穙豆とも和名「たんきりまめ」あり 又褐大豆あり「くハちんまめ」と云 豆のいろ黒褐あり 又また大豆の緑大豆ハ「あをまめ」あり 皮を裏まで青きを のあり 肉裏青と云 又班大豆あり「うづらまめ」と云 皮ふもいろくあり 又黑大豆と書して製すると 大豆豉と 又傷寒論の香豉も是なり

黄大豆 きなまめ 豆 利大腸消腫毒

裏秋のしあり「なつまつを」梅豆とも豆腐を製 ちたす 秋大豆と 鞍秋豆と云 醤油を製するはし 清家の豆油をとるも しまあり 大に大豆名物あり

赤小豆 ちづき 豆 治水腫脹満

是ハも夏秋の二種あり「あつちづき」を麻熟と云「秋ちづき」と秋赤豆と云 薬用ハ「ちこりちづき」と云ものを用ひ 粒小にして色微黑あり 漢名猪肝赤と云 そのかいろくあり 一種めぐろちづきあり 一名「つるちづき」とふあり 又「ちづきのえだ」と腐婢とも「大海くさぎ」ハ腐婢の名あり 癚疾 と治するものあり

緑豆 ぶんどうちづき 豆 切黑豆ふ不相似ず

いろの白きとうもきとあり早く熟するを「つみぶんごろ」と云
遅く熟するを「白きぶんごろ」と云 実は収むべし 俗名「やろろ」とふなり
白豆 ろろひづき 豆 切赤小豆よりあかし
深豆 移みゆ又茶ぐハしの「ろろひん」とも云なり
豌豆 ろんどう 豆 利尿消脹
三種あり常のものハ黒褐色なり一種極めて小にして白色
のものあり「ろろんどう」とふ又さやろんどうとふなり莢ごと食
もとゝ荷蘭豆なり
蠶豆 そらまめ 豆 快胃利腸
只一種あり 俗地に勢るとなり

蔓の長きと短きとあり莢の長さハ十六さゝげとも
実十六か十八粒も有てあり漢名祖常豆とも一種莢紅紫
色なるハ紫紅豆なり是も白色なるものあり三種ともに
莢と連ねて黄食をも又「ささげ」とふなり色ハ蔓短かく
豆を食用とし「ろろさげ」とも又形めぐ様のかくまるくまゝり
なるものあり「めぐさげ」とも又「いんげんさげ」ハ漢名菜豆
とふ是ハ草本のものあり「ホいんげん」とも実さやく熟も
又「ひらまめ」とふあり豆黒くあるハの後あり色紫羅豆なり
藕豆 ふぢまめ 黄名なり 鵲豆 ふぢまめ たちこくまめ 食用ハ可なり
「むちこくまめ」ハ人家に多く栽ゆ花紫白色なるとあり
豆も紫黒色なり白花のものハ豆も白し

白藕豆 じろこくまめ 豆 止痢解毒消暑

豆もまた人家多く熟して食用とす八石豆は豆の中れ

種ゆして拾石豆は穉なりとも甚し

刀豆 なたまめ 豆 解毒止吃逆

豆もまた人家多く熟するものあり

黎豆 ふぢまめ 豆 食用とまれなり

莖葉ともに葛のごとく毛ありて莢も「そらまめ」の莢のごく

ゆて毛なり公園に熟することなり

菜之部 菓菜類

韭 ふら 葉 溫中解毒止血

葱 ねぶか 葉 根 溫中逐邪止痛解毒

葱種あり常のものと青葱とあり葱を「けぎ」なり

「たんぐわけぎ」ともいふなり又樗葱ハやぐらねぎなり

山韭 あさづき えぐろわけぎ 切上に同じ

三月花白ものを食するものなり

薤 らきよう 根 薤白とも溫中止痢

人家に熟して食用とするあり又自生のあり「やまらつきょう」

とも

山蒜 ひる 葉 根 春中食用とす

深山中に生ずるものの葉やらかりて食用ゆし

人家に熟して食用とするものなり

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

葫 ふにく 根 除風温止泄利血成膏貼瘡頭可灸

人家に栽て菜用とする物なり

五辛菜 いろのからさたべこの 肩ゑたべて茂生の氣をたもち邪

氣をさらふ故なり五辛とは韮 葱 蒜 薤 蒜

ちぢかく採用ひらく不宜とよし 韮 薤 葱 蒜

薑 きゝ蒜 葱 韮 薤 蔓菁 蔓菁を用ひる

蕓薹 あぶらな かたね 葉 破瘀血墨を煮て服するよつけてよし

因烟をうるて油を搾りとるものあり一種「まふ」とふなり

つけ菜にて食用とするなり

芥 からし 葉 和中利小便

此葉の茎ちらぐきなとゝ文字を結てひ

らぐきなふ」も又紫菘とふなり「むらさきな」のことなり

芥 からし 白芥子 温中豁痰 外傳 止痛 散腫

常のからしハ「たうなとふ」也青芥あり一種「かわぐからし」ハ

春不老とふ和しふなり 葉もまハ白芥子を用ゆ

菜 ゆ

蕪菁 かぶら 葉根 食用よし

人家に作るものを「をりかぶら」多し是蓮花白とふなり

中ほそ「ながうぶら」を作るものなり故を箭竿白とふなり

萊菔 だいこん 根 和中去痰 子 化駆痰

萊の中にて尤必用の菜なり種類多し尾張大根乃

種をうるものなり又紅蘿蔔あり「にんかだいこん」あり又「ちるぐ

ちだいこん」とゝあり根細長ゝして牛蒡の如し又三月大根
あり「ぢりこみ」とゝ春中江津秋里の村々より出るもの
なり一種「かぎな」とゝあり春中苗をまいて食を養し
根ハ硬くかゝして食もたたぐ

生薑 ちやうが 根 除邪開胃止吐去痰

生姜ハ氣多邪ゆゑ多く作る者等乃生姜名物あれ
ども今ハ江津山ゝ作りて又河村郡三朝より出地多くして
玉根より繁殖するゆゑ根と母薑とゝあり又ワカ根と紫薑とゝ
と乾ものとゝ乾生薑とゝあり乾姜を製するあり又「ちやうが」

茼蒿 むじんさう ちやんぎく 葉 消痰利腸

人家ゝ栽て食用とするものあり

邪蒿 やまちやんぎく 葉 除邪通塞

河原の多く路傍ゝ多し 胡蘿蔔ゝ似り

胡蘿蔔 ちんぎん 根葉 食用あり利腸安中

農家ゝ栽て菜ちんぎんと市ゝ出し秋ゝ多く根ふとく
あるハ根とするゝ食用とするゝ秋里村の名物あり

水蓆 せり 根葉 利腸止血生汁滴耳中止痛

水辺溝瀆ゝ多し冬春の佳菜なり一種陸生のもの
ゝ「ふとぐぜり」とゝ又「やまぜり」とゝあり

紫萱 むらさきけすん 苗根 功蒲公英ニ同ジ解凝健胃

路傍樹下ゝ多し春淡紅黄花を開く一種黄萱あ

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

り花のいろ多く毒草なり又一種「げんさう」一名「ぼたんさう」
とも云り人家に栽て花と愛玩す漢名荷包牡丹と云
懐香（ういきやう）［子］調中止痛破氣
公園より苗を接けて栽しむ人家にも多し
蒔蘿（いのんど）［子］功苗香ふ似たり
公園にあり　苗苗香ふ似てふなり
羅勒（めぐき）［茎葉］調中消食去悪氣
公園にあり此子を眼中に入れても痛と覚ぬ故に「めぐき」
とふなり
白花菜（ようかさう）［葉］洗痔よし
公園にあり葉五加の葉の如くして小なり

蓽茇（いぬぢしゃ）［葉］利膈溫中
水辺に生ずるものく茎高し　路傍に生ずるものく小なり又
山中水辺に生ずるものを「いるちぜり」と云春中食べし

滑菜類

菠薐（ほうれんさう）［葉］開膈解毒
人家に栽ることなり葉に三角あり　恭菜の一種なり
恭菜（ふうちぢさ）［葉］搗て灸瘡に傳てよし
人家に栽く食用とす一種火焔菜と云り葉の末紅
色なり山根大こんの如くして切ハあかく色なり

東風菜 あらやまぎく 葉根 治頭痛目眩

山中に多し 葉向日葵に似て深緑色 茎紫色なり
茎折れば香氣あり 其の葉滑菜に似て 救荒の菜
なり

薺 なづな 根葉 焼 治痢

人家園側 路傍に多し 実三角にして三味線の
ばちの如し 小児の弄びとするものなり 苗老大なる
ものを 荠苨と名づく

繁縷 ぬづろ たらべ 苗 下産後悪血

庭際路傍に多し 一種「こがまびし」とあり「ぬづろ」に
似て葉丸く 茎短し 花黄色なり 又一種「ぬまたらべ」

花白にして「つるせんとふ」なり 山中に多し 蕓羅の蔓草
とあるべし 根あり 花黄にして「ぬづろ」の如し

鶏腸草 たまりとさえらべ 苗 止小児下利 又焼かして腐るつけそよし

山足路傍人家園中に生ず 春草なり 茎のでうけ
枝子の如くにして小なり 後茎立て 穂先に淡黄の小花を
開くものあり 一種「ひろとふ」とあり 山中に生ず 花大なり

苟菊 うまごやし 葉根 利腸去熱

京師に生ずるものなり 近郊に多し 袋川堤 鹿野橋に
あり 茎随軍茶の如く 仰り 実の角巻曲して いらあり 一種実
の莢を結ぶごとくして小毬となるものなり 上年 宋氏漢名の天蓋ル
元の時 公園に多し

莧（ひゆ）　其のひゆは俗名の如く野生の多く細莧ハ

て「いぬびゆ」あり園中路傍に多く紫莧もあり

も「いぬびゆ」など多からず花ハ穂ハ〜世のさしるつけてよし

馬歯莧（まごりびゆ）　葉　消腫解毒通淋用外皆用（つみ葉のみ葉ともるもとあり）

園中園例に多く　苗を拔馬の脚のようにて歯のようにとる

ものあり一種水馬歯あり「ふづちとべ」と云清水中にあり

苦菜（まごやーのげー）　葉　治留飲熱渇白汁出り疔腫蛇咬よし

園例庭際に多く多くものあり

萵苣（ちさ）　葉　開膈通乳汁利尿

人参を却て食用とするものあり葉の皺のあるものの上品なり

一種「ちらんぐぢさ」とあり花紫色なり公園にあり又一種

水萵苣あり「かいぢさ」とあり溝例水辺に生じ茎中

を揉り食を氣多効　麻肥の名物なり

翻白草　其の翻白草肥せあり一種「こうざさ

いこ」とあり山中に多く又七葉のものあり

花ハ一名鶏腿花とあり二種ともに根を揉りて用ひ

血のぶりを止め活痰と沒ひてよし

蒲公英（たんぽ）　根　健胃解凝のあり

原野路傍に生じ伯州に多く一種英花のものあり

黄花菜（みがる）　根　大抵上る用ひ

路傍に多く一変茎多く花を開く

一種夏と秋ものあり花前刀股あり一種海浜石上に

生ぜるものは葉厚くして白毛あり いぶがるとよみ一名海
砂地に生ずるものを「はまあがる」一名「いちやうぐさ」という
系銀杏系ふに似たりこれ花の形は同じ花なり
落葵 つるむらさき 葉 食用ふ佳あり
人ありて熱して児如の涙をのまするものあり
蕺菜 どくだみ 根 治諸瘡毒
人家陰地に多く除きがたきものなり
芸蒿 さらびく 茎 可作蔬 根粉 餅となすべし
高山菅野に焼る跡に生ずるものなり 此根を掘り粉にして餅とまぜて黒腐とす 別に一種紫
黄ところ「ぜんまい」なり 山豆 水辺に生じ花も深山

に生ずるものの上品なり一種茎かくく大なるものあり「おみ
ぜんまい」ところ食用とせず「おのぶぜんまい」ともあり
薇 そまわらび 葉 可救荒
岩井郡浜大谷村辺の砂地に多し「わらび」に似たるものあり 薇の字を「ぜんまい」と訓ずるは非なり
麹塵 ぬかまるごぐさ 茎葉 止瘧 治血
原野向陽の地に多し 系紫雲英の系に似て長く
数多し一種白花あるものあり「まぐさのわらび」とよむ
鹿藿 べにばいまめ 豆 治瘰癧止頭痛
山野に生ず 小樹をまとうふ 莢長さ一寸 有毛
如て毛あり一種豆の莢と花と大きさと

「もぜ」の実の如きものあり 味あり 根 豆の芽 このつけ
を「ゆぶまめ」とゝふ

灰藿 あさあぶ 葉 諸虫咬つけ瘡と成ひてよ〳〵
人家園圃の中に多し 生ぜ葉の形三角にして白〳〵
のちに赤くなるあり 又一種茄のごとくなるあり 「のなぶ」「かゝら
あぶ」とゝふあり 又「なゝ」「なゝのぶ」あり 水落藜とゝふあり

藜 あかあぶ 功上に同じ

人家園圃乃中に生ず 嫩心紅色あり 大なるものハ
杖とするあり

芋 いも 数名あり 根子 寛腸破血
数種あり 常の「さといも」ハ青芋とゝふ「ゝのいも」ハ紫芋な
り「さゝといも」ハ白芋とゝふあり

土芋 かたくりいも 根 可者食生研服吐あり
人家に多く栽るものなり 一種別に「ねど」とゝふものあ
り山中に生ぜ常のものハ葉なれども三葉のものあり毛
土圃児あり 小さき蛇出と殺すの功あり

薯蕷 やまのいも 根 止泄利強筋骨
山中に多し 人家に作るものを「おがいも」と云 葉ハ赤ぜ
一種「きりいも」とゝふあり 漢名佛掌薯と云 人家に栽て
食用とするあり 二種ともに系間に「むらご」とゝふ毛
零餘子あり

甘藷 さつまいも 根 可充糧

古地を撰てよく繁殖を実る所世の良品なり皮
紫若色のものの上品なり此根を水干まれば葛粉の如し又
根を蒸して酒を釀也煎しも焼酎なるなり

百合 さゝゆり 根 止嗽安心

心中樹下に多し五月茎上に白花を開くものあり「ゆり」の花
多し葉后に変「ゆり」なり此は多く巻丹根なり毛ハ細長
のものの根をよく味苦くなり一種山丹とゆり和名「ゆ
り」なるさ一尺餘花ハ「つゝじ」のごとく天に向て色深紅花の形を
如りと云黄色なるを「きゆり」と云人家に栽て花を賞也

草石蠶 ちろろぎ 根 解毒止痛

人家に栽て食用とするものなり

竹筍 たけのこ 解酒毒化痰

淡竹筍を上とす苦竹筍ハ味苦し其外の品早
さは江南竹の筍なり紫竹人面竹篁竹潮湘竹
等の筍も食べし一種「まゞのこ」とゆり深山
に生ず淡竹筍に大だもて竹のハ小なり和名抄
に大きゝとゆ美稽名ゆ

蔬菜類

茄 なすび 蔕 焼灰止下血 葉茎根 消腫止痛 ひゞの手足を洗てよし

夏中食用のものなり早く実を採ずをいらるゝ実
小なり冬中のものあり実稍大なり秋に到りて色変形

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』　請求記号 特7-52
ガラス使用

大なるをゆうふくとして又形扁たくひだあるをあと「きんちゃくあるをび」
とふ又長きこの種のものあり又一種「おもあるをび」一名「ちゃるをび」
あり色黄赤とするこのなり色金瓜茄あり

壺盧 ゆうごう 瓜 除熱利腸治淋

佰列汗入新色にて多く作り「かん瓢」とあり色「おがゆう
ごう」ふして瓢あり其形糸扁すして大なるものと匏
とつふ糸人炭斗とも有よ「ちゃうふくべ」とよび色しまく
りん瓢ありとるを色「一種酒とつる「瓢たん」ハ蒲盧あり
まく小なるを「せんなり瓢たん」とよび色小葫蘆あり

冬瓜 とうがん 瓜 利尿止渇解毒

圃に作りて食用とするこのあり

甜瓜 ちんびうりう 瓜 止渇利尿

圃作りて食用とす京都のまくわうりと同じ一種「ほうづき
うり」とふなり公園にあり「茅」とよるあり又「たま
ごうり」とふなり色銀瓜なり

西瓜 すいか 瓜 除熱利小便

色黄赤叶村より出るこの名物なり上方の瓜の如くいろ赤
からざれども味甘し核に黑赤の二種あり「赤さね」とよ
とた又近来「ちうぼのこ」なり色月明瓜あり

南瓜 なんくわ 瓜 調中固腸

形糸扁すして隆起するものあり四隅
まるこなり一種形長く頭あるものあり「とうなす」或ハ「かぼちゃ」

とうふ一種「ちりめんがうあら」ありこれを食用とす
又を来ありうがうふら」あり形「ながちゃの如くみゝ味淡薄なり
又一種金瓜とゝふあり形誠瓜の如くみて赤ゝ水脹る
すとゝふあり

越瓜 えちうり 瓜 利小便止渇

竪き筋ぶとのあり又「ちみうり」とゝふあり皮
色深き内ハ白ゝ歯切よゝ毛田鶏瓜あり一種「ま
づけうり」あり形甜瓜と同じ中ごとあり瓜蔓茎など
をいまて漬物とするなり毛茎瓜すり

胡瓜 きうり 瓜 切上と同じ

常の瓜を熟すれば皮黄色なるなり一種白色のもの
あり毛玉黄瓜あり

絲瓜 へちま 瓜 解熱治疝瘡瘡
瓜小なるとき早く採り食べゝ蔓を切り水をとり玉湯
火傷をつけてよゝ

苦瓜 つるれい 瓜 裏 除熱明目
人家に栽て小児の食用とす一種形長く六寸計りなるあり
「ながまいゝ」とゝふ

甘蔗 さとうきび 草 清痰除熱寛膈
じゝ丞遠岩井形浦留ゝ栽内
こゝ萩蔗かゝて砂糖と制表すべゝ先一番ゝ搾りたるハ黒
砂糖あり製して白沙糖と製して砂糖
時珍世ものと蔗果
ゝ入られたり今始
らくはあま入る

ところを見る石蜜なり

水菜類

紫菜 のり　利膈治瘻

浦曲にて海苔製を一種同所にて「大りのり」とよびけり
見「とさのり」みて鶏脚菜なり形こりのさかゆる如き多し
て食ふ屋にこれを以汁とする也

石蓴 あおさ　切ふ同じ

海中の石に着て生ず汗入郡年田村辺の海に多し

石花菜 ところてんぐさ

瓊脂と称して食まるあり乾くるとかんてんとよぶ一種

又一種 ジョウ 伯州 ところてん草に似て色淡黒之

仙菜と云りいぎもとよぶこれあり八橋郡海辺に多し煮凝
して「ところてんやく」の如くみて食を「いぎもごんやく」とよぶ又一種
鹿角菜に似たるあり見竜鬚菜なり

睡菜 えびそんげ　根 合人睡

池澤中に生ず海士池に多し形ち夏の如く三葉す
て大なり春長穂を抽で花を開くこれあり

芝栃類

芝 さいたらぶげ

慶延に強にのせて物をこれなり

木耳

さるぶげ　痔疾によし

清水にはえる桑樹のとよりしたる毛桑耳あり又桑樹に
はえる糊稼眼と桑黄と云毛「めしまこぶ」あり血とあるは
香蕈 ちのうけ　破血酒の碎と塊とあるなり
柯樹にはえるたけあり深山にあり　但同　山ぶの附源ふ
いふけ　杉蕈ハ「まつぶけ」なり近山杉山多し　沖山
にはえるこの上あり　山一稜に「さまつ」とあり早くはえる杉花
蕈あり又麦蕈ハ「ちくろ」なり加賀湖山の砂地に多し　山
ゐも稀にあり　玉蕈ハ「ちめぢ」なり毛にはえる「かふちめぢ」
の二ふあり黄蕈ハ「さちめぢ」なり紫蕈ハ「むらさきちめぢ」又
「ちぐめつぎ」ともいふちぐの上にはえる　山一稜に「ちめぢ」
とあり又別に「ひいたけ」とあり毛青紫蕈なり　小杉林の

中にはえ又「ぶなあい」ハ樹の木のわにはえて味美し「あいたけ」に同
じ又「ぶなたけ」あり　胴腑蕈とあり又山中　ふざくらの中に
はえる「ぶなたけ」とあり毛仲茹蕈なり　春と
冬とい食まべ　秋はえるこのい毒ありといへり
天花蕈 ちらけ　食して害なし
杉樹柳の杉木にはえ「ぶな」の樹にはえ毒あり又
牛草蕈雞樅とまつけと刻ぶれば「ぶなたけ」
八重蕈なり　山中の杉樹梯にはえ　根杏蕈
の如く所にて方々にあり又栗の樹にはえ
「くりたけ」とあり智頭郡の奥より多くあり　別に「ねぶとたけ」
とあり毛掃箒蕈なり「くりたけ」漢名軸蕈とあるなり

土菌（ごぼうけ）　惣名なり

仙人帽（せんにんがさたけ）蓋の形あるより名付　白絹とあり　色てあり

鬼蓋（きつね茸のかさ）　糞壌土より生ぜ　高さ低く小なり

地芝（鬼蓋の茸色なるを称して云）　日よりれい枯腐

ものより一種「ととの」とつふものあり　栗樹の枯ら

ものより生ぜ　茎乃根ふとく　蓋のつ細し　一處に多し

生ぜ見ハ食用とする　なり

鬼筆（きつね茸の形のごとく）　形狸尾ながて　紫ら赤いろ小黒点あ

り　毒物なり

又山中陰地より生ずるけよ　黄饅頭とつあり　和名「い

くちとり」形　光ぢうの如くなりて　黄あり　乾して食用とする法

あり

地耳（くろかりけ）　形ほこけ　表ほこけ　裏ハ　稍々ふくらみ「くろかりけ」ハ

丘陵樹下より生ぜ　裏ハ蜂窩眼なり　一種黒褐毛ありて　裏

切ものハ毒なり　表の「かりけ」ハ　茅蕈と云　深山林中ハ

多く生ぜ　智頭郡日野郡のその名物あり

石耳（いしけ）　収斂強壮の効あり

深山叢石上より生ぜ　軒のそ点ものとし　生食者多し

あり

特
7
ろ
52

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』 請求記号 特7-52

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『因伯産物薬効録』 請求記号 特7-52

ガラス使用